

宮澤浩一 教授 略歴

略歴

- 一九三〇年 五月 東京に生まれる
- 一九四八年 三月 旧制鎌倉中学校修業
- 一九四八年 四月 慶應義塾大学法学部予科入学
- 一九四九年 四月 慶應義塾大学法学部法律学科編入学
- 一九五三年 三月 慶應義塾大学法学部法律学科卒業
- 一九五三年 四月 慶應義塾大学大学院法学研究科民法学専攻修士課程入学
- 一九五五年 三月 慶應義塾大学大学院法学研究科民法学専攻修士課程修了
- 一九五五年 四月 慶應義塾大学法学部助手
- 一九五七年 九月 ハイデルベルヒ大学（西ドイツ）留学（五九年三月まで）
- 一九六〇年一〇月 慶應義塾大学法学部助教
- 一九六四年夏学期 ザール大学（西ドイツ）客員教授
- 一九六六年 一月 慶應義塾大学法学部より法学博士（学位論文「被害者学の基礎理論」）
- 一九六六年 四月 慶應義塾大学法学部教授
- 一九七五年冬学期 ミュンスター大学（西ドイツ）客員教授
- 一九七七年 テュービンゲン大学（西ドイツ）から名誉博士号授与
- 一九八〇年冬学期 ケルン大学（西ドイツ）客員教授
- 一九八六年冬学期 ゲッティンゲン大学（西ドイツ）客員教授
- 一九八八年一〇月 ザールブリュッケン大学（西ドイツ）から名誉博士号授与

一九八九年二月 西ドイツ政府よりドイツ連邦共和国一等功勞十字章授与
一九九五年一〇月 ベッカリーア・メダル金賞受賞

学会活動・社会的活動

- | | |
|--------------------|--------------------------------|
| 世界被害者学会副会長 | 一九七九年一〇月～一九八五年九月／一九八八年一〇月～現在まで |
| 世界被害者学会会長 | 一九八五年一〇月～一九八八年九月 |
| 国際犯罪学会副会長 | 一九八八年五月～現在まで |
| 日本刑法学会理事 | 一九六七年一〇月～一九九四年五月 |
| 日本刑法学会監事 | 一九九四年五月～現在まで |
| 日本被害者学会理事 | 一九九〇年二月～現在まで |
| 法制審議会刑事法特別部会幹事 | 一九六五年九月～一九七三年九月 |
| 法制審議会刑事法部会委員 | 一九八六年一〇月～現在まで |
| 法制審議会少年法部会幹事 | 一九七一年九月～一九八二年三月 |
| 法制審議会少年法部会委員 | 一九八二年四月～一九九〇年三月 |
| 法制審議会監獄法部会委員 | 一九七六年四月～一九八〇年二月 |
| 司法試験二次試験考查委員(刑事政策) | 一九七五年　　～一九八四年 |
| 矯正保護審議会委員 | 一九八五年　　～一九九五年 |
| 国家公安委員会犯罪被害給付専門委員 | 一九八一年　　～現在まで |
| 文部省視学委員 | 一九八七年　　～現在まで |
| (財)日本刑事政策研究会評議員 | 一九七九年四月～一九九三年五月 |
| (財)日本刑事政策研究会理事 | 一九九三年五月～現在まで |
| (財)アジア刑政財団理事 | 一九八九年三月～現在まで |

宮澤浩一 教授 主要業績

一、著書・編書

- G・ラートブルフ著 共訳（ラートブルフ著作集7）『一法律家の生涯 P・J・アンゼルム・フォイエルバッハ伝』
東京大学出版会 昭和三八年
- 『犯罪学二五講』
慶應通信 昭和四一年
- 『被害者学の基礎理論』
世界書院 昭和四一年
- 『被害者学』
紀伊國屋書店 昭和四二年
- 編著『世界諸邦少年法制の動向』
鳳舎 昭和四三年
- アルトゥール・カウフマン著・共訳編『現代法哲学の諸問題―法存在論的研究―』
慶應義塾大学法学研究会 昭和四三年
- 編著『犯罪と被害者』
成文堂 昭和四五年
- 共編『刑事政策講座 第一巻 総論』
成文堂 昭和四六年
- 共編『犯罪学リーディングス』
慶應通信 昭和四六年
- 編著『犯罪と被害者 第二巻』
成文堂 昭和四七年
- 編著『少年法改正』
慶應通信 昭和四七年
- 共編『性と法律 性表現の自由と限界』
成文堂 昭和四七年
- アルトゥール・カウフマン著『現代法哲学の目的』（翻訳）
慶應義塾大学 昭和四七年
- 『刑法の思考と論理 刑事法論集第一巻』
成文堂 昭和五〇年
- 『現代社会相と内外刑法思潮 刑事法論集第二巻』
成文堂 昭和五一年
- アルトゥール・カウフマン編・共訳編『行刑改革の諸問題』
成文堂 昭和五一年
- 編『外国刑事法文献集成1 ゲリヒツザール』
成文堂 昭和五一年

『刑事政策の源流と潮流 刑事法論集第三巻』

『刑事法学の諸問題 刑事法論集第五巻』

編『西ドイツ刑法学 学者編』

編『犯罪と被害者 第三巻』

『これでもいいのかニッポン 私の少数異見』

編『外国刑事法文献集成2 スイス刑法雑誌』

ユルゲン・パウマン編 共監訳『西独刑法改正論争』

『刑事政策の動き』

C・ロクシン著 監訳『刑法における責任と予防』

共編『外国刑事法文献集成3 ドイツ全刑法学雑誌』

アルトゥール・カウフマン著 監訳『法哲学と刑法学の根本問題』

ハンス・ヨアヒム・ヒルシュ著 共監訳『ドイツ刑法学の現代的展開』

K・H・ゲッセル著 共監訳『正義・法治国家・刑法―刑法・刑事訴訟法の根本問題』

クラウス・ティイーデマン原著 共監訳『経済犯罪と経済刑法』

共編著『法学リーディングス 第2版』

カイザー／クローリー／アルブレヒト 編訳『犯罪被害者と刑事司法』

共編『犯罪学』

二、法学研究

ラートブルッフ「法のブレビエ」〈紹介と批評〉

ラートブルッフ刑法草案及理由書（共訳）〈資料〉

死刑廃止の歴史Ⅰ・Ⅱ―西ドイツ連邦共和国を中心として〈資料〉

成文堂 昭和五二年

成文堂 昭和五三年

成文堂 昭和五三年

成文堂 昭和五四年

日本書籍 昭和五五年

成文堂 昭和五六年

成文堂 昭和五六年

成文堂 昭和五九年

成文堂 昭和六一年

成文堂 昭和六一年

成文堂 昭和六二年

成文堂 平成二年

成文堂 平成二年

成文堂 平成三年

成文堂 平成七年

成文堂 平成七年

成文堂 平成七年

成文堂 平成七年

法学研究 二八巻 四号 昭和三〇年

法学研究 二八巻 八号 昭和三〇年

法学研究 二九巻一〇・一一号 昭和三一年

ドイツ語圏の各国大学における刑事法学関係研究者総覧〈資料〉

不真正不作為犯と西独刑法改正草案（1・2）

不作為による共犯―その序論的考察

開かれた構成要件と法義務のメルクマール（1）

開かれた構成要件と法義務のメルクマール（2・3・4）

西独刑法改正に関する資料―政府刊行物・著書・雑誌論文目録〈資料〉

スウェーデンにおける非行少年問題とその対策―少年刑務所を中心として

スーバーマーケットに関する法律上の諸問題

―西ドイツの判例、学説を中心として（共著）

原子力に関する犯罪とその危険構成要件―スイスの立法例を中心として〈資料〉

死刑廃止論の立場

死刑の存廃に関する資料〈資料〉

アルトゥール・カウフマン「現代の法哲学的状況について」〈翻訳、資料〉

被害者学の成立過程

西ドイツ刑法学の現状―刑法学者の業績を系譜学的にみて〈資料〉

スウェーデンにおける新児童福祉法―一九六〇年法律第九七号

「児童及び少年の公的保護に関する法律」の翻訳（共著、共訳）〈資料〉

西ドイツ刑法学の現状（追録―）〈資料〉

少年拘禁（Jugendarrest）について―その法的性格を中心として

ハンス・ゲッピンガー「チュービンゲンにおける統合科学的犯罪学研究

―方法論の問題と経験―」〈翻訳、資料〉

少年拘禁の種類（共著）

法学研究 三一巻 八号 昭和三十三年

法学研究 三三巻一・三三 昭和三十五年

法学研究 三三巻 二二号 昭和三十五年

法学研究 三三巻 二二号 昭和三十五年

法学研究 三四巻一〇（一二号 昭和三十五年

法学研究 三五巻 三三 昭和三十七年

法学研究 三五巻 八号 昭和三十七年

法学研究 三六巻 一号 昭和三十八年

法学研究 三六巻 三三 昭和三十八年

法学研究 三七巻 一号 昭和三十九年

法学研究 三七巻 一号 昭和三十九年

法学研究 三七巻 五号 昭和三十九年

法学研究 三八巻 八号 昭和四〇年

法学研究 三八巻 八号 昭和四〇年

法学研究 三八巻 二二号 昭和四〇年

法学研究 四〇巻 三三 昭和四二年

法学研究 四〇巻 六号 昭和四二年

法学研究 四〇巻 二二号 昭和四二年

法学研究 四一巻 二二号 昭和四三年

法学研究 四一巻 二二号 昭和四三年

ラートブルフの刑法論Ⅰ・Ⅱ

スイスにおける信頼の原則

精神障害者に対する刑事処分について―社会治療処分再説―

少年審判補助機関の成立過程―序論的考察(共著)

学問としての行刑学―その体系化の試みと問題点

被害者学は社会学に何を期待するか

西ドイツ刑法学の現状(追録Ⅱ)〈1・2〉

女性と犯罪〈資料〉

西ドイツ刑事法学の研究体制―付 オーストリアおよびドイツ語圏スイスの状況〈資料〉

一九七四年オーストリア新刑法典と堕胎罪規定について〈資料〉

西ドイツの裁判官研究について―西ドイツ法社会学の現状に関する一つのメモ

西ドイツ刑法学の現状(追録Ⅲ)〈資料〉

日数罰金制の意義と現実―西ドイツの新刑法典を中心にして

社会内処遇の原型―少年処遇の先駆者としてのJ・H・ウィヒェルン

西ドイツ刑法学の現状(追録Ⅵ)〈資料〉

西ドイツにおける被害者調査―特に、フライブルク調査を中心として〈資料〉

レイベリング・アプローチの新展開―西ドイツにおける「企業内司法」研究を手がかりとして

刑法学研究の基礎―一九世紀ドイツ行刑学の論文集成を終えて

オーストリア犯罪学の現状―ラベリング論を中心として

オーストリア刑事法学の一断片(追録Ⅰ・Ⅱ)〈資料〉

法学研究 四一卷八・九号 昭和四三年

法学研究 四二巻二号 昭和四四年

法学研究 四三巻三号 昭和四五年

法学研究 四三巻五号 昭和四五年

法学研究 四四巻三号 昭和四六年

法学研究 四五巻二号 昭和四七年

法学研究 四五巻九・一〇号 昭和四七年

法学研究 四六巻七号 昭和四八年

法学研究 四七巻三号 昭和四九年

法学研究 四七巻一〇号 昭和四九年

法学研究 四八巻四号 昭和五〇年

法学研究 四八巻六号 昭和五〇年

法学研究 四九巻一号 昭和五一年

法学研究 五〇巻一号 昭和五二年

法学研究 五〇巻五号 昭和五二年

法学研究 五〇巻二一號 昭和五二年

法学研究 五〇巻二二號 昭和五二年

法学研究 五一巻五号 昭和五三年

法学研究 五二巻四号 昭和五四年

法学研究 五二巻四・五号 昭和五四年

法学研究 五二巻四・五号 昭和五四年

法学研究 五二巻四・五号 昭和五四年

刑事法研究のための基礎資料―欧米主要刑事法学者関係の記事（法哲学者・刑法理論家を含む）〈資料〉

西ドイツ刑法学の現状（追録Ⅴ）〈資料〉

スイスの犯罪学

被害者学ビブリオグラフィ―ドイツ語文献（共編）〈資料〉

被害者学ビブリオグラフィ―英語文献（1～3）（共編）〈資料〉

西ドイツ刑法学の現状（追録Ⅵ）〈資料〉

西ドイツ刑法学の現状（追録Ⅶ）（共著）〈資料〉

西ドイツ刑法学の現状（追録Ⅷ）（共著）〈資料〉

被害者の法的地位―西ドイツの動向を中心として

経済犯罪について―西ドイツ連邦刑事警察局の資料を中心として―

ナチス犯罪の追及と西ドイツ刑事司法―特に、ナチス犯罪追及センターの活動と

ナチス犯罪者の外泊に関する許諾の問題を中心として

オーストリアにおける外国人労働者の諸問題―特に、治安に及ぼす影響を中心として―

資金の洗浄（マネー・ロンダリング）と金融業者の責任―スイス刑法三〇五条の三を中心として―

慶應法学の第二世紀

フォルカー・クライ「警察が人質犯罪に対応する場合の性的問題―警察に対する

検察官の指揮命令権・人質救出のための意図的射殺」（共訳）〈資料〉

フォルカー・クライ「不正な麻薬取引その他の組織犯罪の現象形態の対策に関する法律案（組織犯罪対策法案）

における収益の剥奪―資産刑・拡大収奪および資金の洗浄に関する規定の批判的検討」（共訳）〈資料〉

法学研究 五三卷 八号 昭和五五年

法学研究 五三卷一〇号 昭和五五年

法学研究 五三卷一二号 昭和五五年

法学研究 五五卷 三号 昭和五七年

法学研究 五五卷五〇七号 昭和五七年

法学研究 五五卷一二号 昭和五七年

法学研究 五七卷一二号 昭和五九年

法学研究 五九卷 八号 昭和六一年

法学研究 五九卷一二号 昭和六一年

法学研究 六〇卷 二号 昭和六二年

法学研究 六一卷 二号 昭和六三年

法学研究 六二卷一二号 平成元年

法学研究 六三卷一二号 平成二年

法学研究 六五卷 一号 平成四年

法学研究 六六卷 二号 平成五年

三、主要論文

ハインツ・ミュラー＝ディーツ「ゲストフ・ラートブルフの目から見た行刑」(共訳)	法学研究 六六卷一〇号	平成五年
ゴルダンマー刑法雑誌 著者名目録(一～四)(共編)〈資料〉	法学研究 六八卷三三六号	平成七年

人工受精に関する刑法上の諸問題

ドイツ刑法学会の動向

いわゆる責任説について

麻醉分権と刑事裁判

開かれた構成要件

社会的行為論—學說史的にみて

人工受精と姦通罪―イタリアの判例・学説から

イタリーにおける共犯論―伊刑法一一〇条を中心として

ドイツの交通チケット制について

西独における年長少年法制の問題点

ドイツ刑法学会の群像Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ

西ドイツの少年法制の現状と将来

スイス少年法制の現状と改正の動向

処遇の多様化―保護処分を中心として

過失犯と期待可能性

一九六五年スイス刑法一部改正草案における少年法制の改正について

西独における年長少年法制の改正動向―少年裁判所法改正の覚え書を中心として―

法学研究 六六卷一〇号 平成五年

法学研究 六八卷三号 平成七年

法学研究 六八卷三、六号 平成七年

小池隆一博士還暦記念論文集『比較法と私法の諸問題』昭和三四年

『人工受精の諸問題』（小池・田中・人見編）昭和三五年

綜合法学 三三號 昭和三十六年

警察學論集 一五卷 四号 昭和三七年

綜合法学 四二号 昭和三十七年

綜合法学 五三號 昭和三十七年

綜合法学 六一号 昭和三八年

齊藤金作博士還暦祝賀『現代の共犯理論』昭和三九年

ジュリスト 三一五号 昭和四〇年

家庭裁判月報 一七卷五号 昭和四〇年

法律のひろば 一八卷四七・一二号 昭和四〇年

ジュリスト 三四二号 昭和四一年

ジュリスト 三四五号 昭和四一年

ジュリスト 三五三号 昭和四一年

日沖憲郎博士還曆祝賀『過失犯(1)』 昭和四一年

家庭裁判月報 一八卷三號 昭和四一年

家庭裁判月報 一八卷 六号 昭和四一年

判例タイムズ 二〇二号 昭和四二年

判例タイムズ 二〇六号 昭和四二年

ジュリスト 三七二号 昭和四二年

法律時報 三九卷 四号 昭和四二年

家庭裁判月報 一九卷 五号 昭和四二年

犯罪学雑誌 三三卷 四号 昭和四二年

判例タイムズ 二二八号 昭和四三年

法律時報 四〇卷 八号 昭和四三年

法律時報 四〇卷 一二号 昭和四三年

『矯正論集』

社会治療施設について―一九六六年西ドイツ刑法改正草案対案とデンマークの法制を中心として

佐伯千仟博士還暦祝賀 『犯罪と刑罰(下)』 昭和四三年

わが国における被害者特性の実証的研究の現状と受刑者による被害調査の必要性 (一) (二)

刑政 七九卷 四・六号 昭和四三年

法律時報 四一巻 二一號 昭和四四年

研修 二五〇号 昭和四四年

ジュリスト 四二八号 昭和四四年

法律のひろば 二二巻 九号 昭和四四年

法律時報 四二巻 六号 昭和四五年

法律時報 四二巻 一三號 昭和四五年

ケース研究 一二二号 昭和四五年

一九六五年スウェーデン新刑法典における「制裁」について

一九六六年西ドイツ刑法改正対案の刑事政策的規定について

西ドイツにおける刑法改正対案

交通反則通告制度をめぐって

少年法制の歴史的展開

少年法改正論争の問題点―改正構想の批判的考察

「見せ金」をめぐる法律上の諸問題 (Ⅱ)―刑法上の考察

西独刑法改正草案対案について

再び西独刑法改正草案対案について

死刑廃止論の一試稿

「保安処分」の比較法的検討

罰金刑の現代的課題

企業秘密の保護に関する外国の立法例

名誉毀損罪に関する新判例への一考察

死刑廃止の社会的条件―西ドイツとイタリアの場合を中心として―

少年法改正要綱の概括的批判

少年犯罪の世界的傾向と少年法改正問題

交通反則通告制度と少年交通事件処理について(上・中・下)

判例タイムズ 二四三・二四四・二四七号 昭和四五年

刑事政策家としてのフロイデントール(一)(二)

判例時報 八・九号 昭和四五年

少年法改正をめぐる論争点

ジュリスト 四五〇号 昭和四五年

オーストリアにおける信頼の原則―判例の分析

植松博士還暦祝賀『刑法と科学 法律編』 昭和四六年

西ドイツにおける猥褻表現物処罰の動向―判例の分析を中心として

ジュリスト 四七四号 昭和四六年

性的表現の自由化について―西ドイツの場合

研修 二七六号 昭和四六年

イタリア刑法と人工受精―学説・判例の一考察

峯村光郎教授還暦記念『法哲学と社会の理論』 昭和四六年

家裁と調査官制度

ケース研究 一二六号 昭和四六年

最近のオーストリア刑事交通判例にあらわれた「信頼の原則」

法曹時報 一三卷 九号 昭和四六年

わが国における被害者学研究の現状―性犯罪研究の成果を中心として―

犯罪と非行 一〇号 昭和四六年

騒擾罪に関する一考察(上)―大須事件、メーデー事件判決を中心に

判例タイムズ 二六六号 昭和四六年

少年審判補助機関の成立過程 序論的考察

家庭裁判月報 一三卷一〇号 昭和四六年

少年法改正

ジュリスト 四九七号 昭和四七年

騒擾罪に関する一考察(下)―大須事件、メーデー事件判決を中心に

判例タイムズ 二六九号 昭和四七年

ドイツ少年法制の展開過程―フロイデントールの寄与を中心として

家庭裁判月報 二四卷 七号 昭和四七年

少年法制に関する比較法的検討

ケース研究 一三二号 昭和四七年

わが国の被害者研究の現状と将来

『犯罪と被害者 第二巻』 昭和四七年

少年法改正要綱の概括的批判

『少年法改正』 昭和四七年

少年法改正の前提条件

判例タイムズ 二八七号 昭和四八年

メーデー事件控訴審判決をめぐって

判例タイムズ 二八九号 昭和四八年

スイス少年刑法の改正について

家庭裁判月報 二五卷 五号 昭和四八年

被害者学の意義と現状

法学教室 一号 昭和四八年

ドイツ ドイツ少年法制の展開過程―フロイデンタールの寄与を中心として

スイス スイス少年刑法の改正について

少年法改正の前提条件（改編）

誤報の被害者

被害者補償制度の比較法的検討―ヨーロッパ大陸諸国

改正刑法草案の「刑罰論」について

西ドイツ行刑法代案

刑事立法と世論調査の動向―内閣広報室の調査結果をみて（共著）

刑法改正の背景と「草案」の思想的背景

軽微な財産犯罪の非犯罪化について

西欧諸国における犯罪者と非行少年の処遇の多様化について

西ドイツ連邦憲法裁判所の墮胎罪規定違憲判決について

フォトコピーと文書偽造罪（上）

外部からみた刑務所

西ドイツの新行刑法について

罰金刑再論―西ドイツの新刑法総則における日数罰金制の運用を中心として

被害者学の立場からみた犯罪被害者補償制度

フォトコピーと文書偽造罪（中）（下）

監獄法改正の課題と問題点

犯罪学の新動向と比較犯罪学

西ドイツにおける被害者研究の現状

西ドイツにおける少年法制改正の動向

外国少年法の動向（最高裁判所事務総局編） 昭和四八年

ケース研究 一三九号 昭和四八年

ジュリスト 五七〇号 昭和四九年

ジュリスト 五七五号 昭和四九年

法律時報 四六卷 六号 昭和四九年

刑政 八五卷 三号 昭和四九年

法学セミナー 二四四号 昭和五〇年

労働判例 二二四号 昭和五〇年

研修 三二〇号 昭和五〇年

刑政 八六卷 四号 昭和五〇年

ジュリスト 五八七号 昭和五〇年

判例タイムズ 三二三号 昭和五〇年

刑政 八六卷 二二号 昭和五〇年

法律時報 四八卷 七号 昭和五二年

研修 三四二号 昭和五二年

警察学論集 二九卷 六号 昭和五二年

判例タイムズ 三三七・三三五号 昭和五二年

自由と正義 二七卷 九号 昭和五二年

罪と罰 一五卷 一号 昭和五二年

小川太郎博士古稀祝賀『刑事政策の現代的課題』 昭和五二年

平場安治博士還暦祝賀『現代の刑事法学（下）』 昭和五二年

被害者学入門(第1〜9回)

西ドイツにおける犯罪の状況

処遇困難者の社会復帰

公衆参加の第一歩としての施設見学

わが国の矯正の現実と情報の国際化

法改正とプレッシャーグループ

刑事政策と情勢の国際化

刑法一七五条にいう「販売の目的」の解釈―ボルノ書籍・図画の国外販売目的をめぐって

ジュリスト 六五九号 昭和五三年

西ドイツにおける刑事立法の動向―その社会的変化と法制度の対応―

研修 三五七号 昭和五三年

被害者学入門(第10〜21回)

警察公論 三三卷一〜一二号 昭和五三年

矯正の近代化と表現の自由

刑政 九〇巻一号 昭和五四年

オーストリアの犯罪学

刑政 九〇巻五号 昭和五四年

被勾留者の信書の制限

刑政 九〇巻九号 昭和五四年

西ドイツ刑事法事情(1)(2)(5)(8)

判例タイムズ 三七一・三七三・三八一・三八八号 昭和五四年

現代社会における少年法の展望

別冊判例タイムズ六号 少年法―その実務と裁判例の研究― 昭和五四年

刑事法内外の動き 第一〜七講

法学セミナー 二三巻五・七〜一一・一三号 昭和五四年

矯正施設の移転問題に寄せて

罪と罰 一六巻二号 昭和五四年

銀行強盗事件に寄せて

罪と罰 一六巻三号 昭和五四年

暴力団対策に寄せて

罪と罰 一六巻四号 昭和五四年

少年法改正の理想と現実

家庭裁判月報 三一巻五号 昭和五四年

被害者学入門(第22〜30回)

警察公論 三四巻一〜九号 昭和五四年

比較刑事法の研究方法について	研修 三六七号	昭和五四年
刑事政策の将来の動向	犯罪と非行 四〇号	昭和五四年
少年犯罪の犯罪社会学的背景	犯罪社会学研究 四号	昭和五四年
金融機関に対する強盗事件の比較犯罪学的研究	捜査研究 二八巻 五号	昭和五四年
刑事法内外の動き 第八〜一八講	法学セミナー 二四巻一〜一一号	昭和五五年
西ドイツ刑事法事情(12)(13)	判例タイムズ 四一七・四一九号	昭和五五年
宗教教誨について	罪と罰 一七巻 四号	昭和五五年
日独犯罪の現状を比較すれば	刑政 九一卷 一号	昭和五五年
実証的な刑事政策研究の必要性	刑政 九一卷 五号	昭和五五年
スイスの行刑	刑政 九一卷 九号	昭和五五年
スイス刑法学研究の基礎	研修 三八五号	昭和五五年
西ドイツの立法と判例に現われた外泊制―通常の外泊制を中心として	法曹時報 三二巻 八号	昭和五五年
西ドイツの刑事法事情(14)(15)	判例タイムズ 四二六・四二七号	昭和五六年
刑事法内外の動き 第一九〜二五講	法学セミナー 二五巻一、六〜一一号	昭和五六年
未必拘禁の諸問題	法学セミナー 二五巻一〇号	昭和五六年
「処分反対論」の検討	刑政 九二巻 一号	昭和五六年
これからの矯正	刑政 九二巻 六号	昭和五六年
コンピュータ犯罪への備え	刑政 九二巻 九号	昭和五六年
被害者の救済	罪と罰 一八巻 二号	昭和五六年
スイスの少年非行の状況	罪と罰 一八巻 三号	昭和五六年
治療処分の必要性	罪と罰 一八巻 四号	昭和五六年
西ドイツにおける少年犯罪者に対する司法的処遇	罪と罰 一八巻 四号	昭和五六年

少年非行の動向と社会の対応

比較刑法研究のための基礎作業

刑事治療処分（保安処分）の意義とあるべき姿―西欧の動向をふまえて―

西欧におけるいわゆる保安処分の現実―スイス、オーストリア、西ドイツを中心として―

更生保護と被害者

オーストリアの犯罪情勢

東独の犯罪動向

韓国の矯正の事情

西欧の動向からみた治療処分の必要性―反対論の批判的検討

受刑者処遇制度（特集 刑事施設法案について）

刑法学の新しい傾向

治療処分の歴史と現代的意義

刑事政策と試行錯誤

行状監督について「西ドイツ」

西ドイツとバイエルン州の犯罪の動向

オーストリアの犯罪学、その後

スイスの犯罪学研究グループ

「治療処分」をめぐる二、三の問題

行状監督をめぐる二、三の問題―特に保安処分と関連して

西ドイツの「処分執行法」をめぐる二、三の問題―執行の緩和と帰休制を中心として

いわゆる保安処分の最近の動向―西ドイツ、スイス、オーストリアを中心として―

井上正治還暦祝賀『刑事法学の諸相（上）』

捜査研究 三〇巻一〇号 昭和五六年

更生保護 三二巻三三号 昭和五六年

罪と罰 一九巻二二号 昭和五七年

罪と罰 一九巻三三三号 昭和五七年

刑政 九三巻七号 昭和五七年

法律のひろば 三五巻八号 昭和五七年

法学研究（愛知学院大学） 二六巻一号 昭和五七年

判例タイムズ 四五四号 昭和五七年

罪と罰 二〇巻三三三号 昭和五八年

罪と罰 二〇巻四四四号 昭和五八年

罪と罰 二二巻一〇一〇号 昭和五八年

刑政 九四巻五五五号 昭和五八年

刑政 九四巻一一一〇号 昭和五八年

研究 四二二六号 昭和五八年

研究 四二二六号 昭和五八年

法曹時報 三五巻六六号 昭和五八年

法曹時報 三五巻六六号 昭和五八年

慶應義塾創立一二二五年記念論文集法学部法律学関係 昭和五八年

自由刑に代わるもの

犯罪被害者の人権

オーストリアの少年非行の動向と少年法改正案

オーストリアの犯罪と刑事政策の動き

刑事政策における矯正と保護

青少年非行の動向と刑事政策的対応―スイスと西ドイツの状況を中心として―

『団藤重光博士古稀祝賀論文集 第三巻』

矯正と保護の現状と展望―処遇思想の動きと関連して―

刑事手続における被害者の地位

犯罪統計をめぐる二、三の問題

わが国における仮釈放制度の意義と問題点―沿革を考え併せて

被害者学事始め〈第一―五講〉

犯罪者処遇と被害者の視点

最近の西ドイツにおける犯罪の動向

西独の保護観察の実態調査について

アジアの少年非行と対比したわが国の少年非行

青少年犯罪の現状と原因

ナチス犯罪の追及四十年

韓国の女性犯罪

被害者学事始め〈第六―一七講〉

時の法令 一二七一・七四・七七・八〇・八二・八四・八六・八八・九〇・九二・九四・九六号

犯罪学の最近の動向

研修 四六〇号 昭和六一年

罪と罰 二一卷 三号 昭和五九年

罪と罰 二一卷 四号 昭和五九年

罪と罰 二二巻 一号 昭和五九年

刑政 九五巻 五号 昭和五九年

刑政 九五巻 六号 昭和五九年

犯罪と非行 六〇号 昭和五九年

判例タイムズ 五三八号 昭和五九年

研修 四三六号 昭和五九年

法律のひろば 三七巻 一二号 昭和五九年

時の法令 一二五七・六〇・六三・六六・六九号 昭和六〇年

時の法令 一二五七・六〇・六三・六六・六九号 昭和六〇年

罪と罰 二二巻 二号 昭和六〇年

罪と罰 二二巻 三号 昭和六〇年

罪と罰 二二巻 四号 昭和六〇年

研修 四四八号 昭和六〇年

家庭裁判月報 三七巻 一〇号 昭和六〇年

世界 四八〇号 昭和六〇年

罪と罰 二三巻 三号 昭和六一年

被害者学からみた交通事故

伝統的犯罪の被害者と現代的犯罪の被害者

西ドイツ刑事政策の一断面

高齢化社会と刑事政策

スウェーデン刑事政策管見

人口の変動と刑事政策の戦略

犯罪被害と被害者特性「西ドイツ」

アジアの少年非行―わが国の非行少年像と対比して

国際化と刑事政策

最近の犯罪・非行理論

犯罪被害者の法的地位について―西ドイツの一九八六年改正法を中心として

被害者化とその法学

被害者学事始め〈第一八―二八講〉

時の法令

欧米、殊に西独の薬物犯罪の現状

被害者学事始め〈第二九―四〇講〉

時の法令

一九世紀ドイツ刑法学研究 序説

無期自由刑受刑者に対する移行緩和、特に外泊について―西ドイツの判例と学説を中心として―

若年者人口の変動と青少年保護政策の対応―西ドイツにおける動きを中心として

オーストリアの「保安処分」について(上)―その現況と手続の実際を中心として

刑法雜誌 二七巻 一号 昭和六一年

法律のひろば 三九巻 三号 昭和六一年

罪と罰 二四巻 二号 昭和六二年

罪と罰 二四巻 三号 昭和六二年

罪と罰 二四巻 四号 昭和六二年

罪と罰 二五巻 一号 昭和六二年

法律のひろば 四〇巻 一号 昭和六二年

青年心理 六五号 昭和六二年

法律時報 五九巻 一〇号 昭和六二年

刑政 九八巻 一〇号 昭和六二年

研修 四七三号 昭和六二年

犯罪と非行 七三号 昭和六二年

時の法令 一二九八・一三〇二・四〇六・〇八・一〇・一一・一六・一八・二〇号 昭和六二年

罪と罰 二五巻 三号 昭和六三年

時の法令 一三二二・二四・二六・二八・三〇・三二・三四・三六・三八・四〇・四二・四四号 昭和六三年

名城法学第三七巻別冊 西山富夫教授還暦記念論文集 昭和六三年

無期自由刑受刑者に対する移行緩和、特に外泊について―西ドイツの判例と学説を中心として― 昭和六三年

若年者人口の変動と青少年保護政策の対応―西ドイツにおける動きを中心として 昭和六三年

オーストリアの「保安処分」について(上)―その現況と手続の実際を中心として 昭和六三年

法曹時報 四〇巻 一号 昭和六三年

『矯正協会百周年記念論文集 第二巻』 昭和六三年

西ドイツ刑事法の変遷と展望

社会の複雑化と被害者

「安楽死事件」と西ドイツの刑事司法―ナチス犯罪追及と過去の清算

刑事政策の歴史的展開と矯正の発展

累犯者問題と我が国刑事政策の今後の展望

恩赦制度再考

社会内処遇の未来像

最近における少年法制改正の動向―西ドイツ、オーストリア、スイスについて

刑事政策演習講座(1)〜(11)

刑事法学の常識・非常識①〜⑨

台湾・フィリピンの刑事政策事情

刑事政策情報の国際的共有

オーストリアの外国人労働者と治安問題

「昭和の刑事政策」について思うこと

少年法改正の新展開―オーストリア、西ドイツ、スイスにおける最近の動向

慶應大学法学部法律学科開設百年記念論文集法律学科篇

スイスの経済刑法の動き

少年法制の最近の動き

東西ドイツの統合と刑事法

篤志面接委員制度の原点

刑事法学の常識・非常識⑩〜⑰

刑事政策演習講座(12)〜(21)

ジュリスト 九一九号 昭和六三年

法律のひろば 四一卷七号 昭和六三年

世界 五二二号 昭和六三年

刑政 一〇〇巻一号 平成元年

法律のひろば 四二巻一号 平成元年

法律のひろば 四二巻四号 平成元年

更生保護 四〇巻一号 平成元年

研修 四八九号 平成元年

警察学論集 四二巻一〜一〇・一二号 平成元年

罪と罰 二六巻三三号 平成元年

罪と罰 二六巻四号 平成元年

罪と罰 二七巻一号 平成元年

罪と罰 二七巻一号 平成元年

罪と罰 二七巻一号 平成元年

罪と罰 二七巻二二号 平成二年

罪と罰 二七巻三三号 平成二年

罪と罰 二七巻四号 平成二年

罪と罰 二八巻一号 平成二年

罪と罰 二八巻八号 平成二年

警察学論集 四三巻二〜五・七〜一二号 平成二年

死刑制度を考える(特集・死刑制度存廃問題を考えるー永山事件差戻し上告審判決を契機として)

法律のひろば 四三巻 八号 平成二年

スイスにおける経済犯罪規制の新展開ー内部情報不正使用と金銭の洗浄の刑法的規制について

法学政治学論究 五号 平成二年

改変テレホンカードと変造有価証券交付罪の成否 上・中・下(共著)

判例評論 三七六〜三七八号 平成二年

刑事法学の常識・非常識⁽²⁾〜⁽³⁰⁾

時の法令 一三九六・九八・一四〇六・〇八・一〇・一二・一四号 平成三年

刑事政策演習講座⁽²⁾〜⁽³⁰⁾

警察学論集 四四巻二・五・七・一一号 平成三年

オーストリアの罰金刑

罪と罰 二八巻 三号 平成三年

経済犯罪の動きと刑事法による対応

罪と罰 二八巻 四号 平成三年

日本の刑事政策の当面する課題

罪と罰 二九巻 一号 平成三年

諸外国の少年非行(特集・少年非行と非行少年の処遇)

法律のひろば 四四巻 一号 平成三年

社会内処遇の展望

更生保護 四二巻 二号 平成三年

ドイツの統一とその法律問題ー司法制度と刑事法を中心として 付 矯正の現況

刑政 一〇二巻 六号 平成三年

犯罪被害者の心理(特集・法律家のための心理学)

自由と正義 四二巻 一一号 平成三年

犯罪の動向と外国人入国者対策

罪と罰 二九巻 二号 平成四年

ドイツ統一と刑事政策

罪と罰 二九巻 三号 平成四年

スイス刑法の五〇年

罪と罰 二九巻 四号 平成四年

ラートブルフの刑法改正論

罪と罰 三〇巻 一号 平成四年

ソ連・東欧社会の混乱とドイツ

時の法令 一四二八号 平成四年

ドイツ統一と司法制度の再編成

時の法令 一四二四号 平成四年

ドイツにおける刑事政策の新しい動きー「損害回復」に関する「対案」〈1〉〈2〉

時の法令 一四三〇・三二号 平成四年

旧東独の法学部の再建と司法制度の再編成―補遺(一)

無期受刑者と社会復帰(特集・女子と犯罪)

刑事法学の常識・非常識②③④

更生保護の最近の動き

社会福祉と犯罪

ドイツの社会的混乱と少年法制

統一後の旧東ドイツと少年非行

刑法理論と被害者学

刑事法学の常識・非常識③④⑤⑥

統一後のドイツにおける犯罪の動向

旧東独法学部の刑事法研究体制

権力者の犯罪

旧東独諸州の行刑改革について

被拘禁者の人権と法執行機関関係者の研修・教育 特に、警察官と刑務官の研修について

犯罪者処遇思想の変遷と我が国の刑事政策の現状

国境を開放したヨーロッパにおける組織犯罪

オーストリアの更生保護制度について

刑事法学の常識・非常識③④

四、外国語文献・論文

(mit Kühne) "Das japanische Jugendschutzgesetz mit Nebengesetzen", Eine kommentierte Übersetzung und

時の法令 一四三八号 平成四年

更生保護 四三卷八号 平成四年

時の法令 一四四六・四八・五一・五六・六〇・六四号 平成五年

罪と罰 三〇卷二号 平成五年

罪と罰 三一卷一号 平成五年

刑政 一〇四卷一号 平成五年

刑政 一〇四卷七号 平成五年

福田平・大塚仁博士古希祝賀『刑事法学の総合的検討(下)』 平成五年

時の法令 一四六六・六八・七〇・七六・七八・八〇・八四・八八号 平成六年

罪と罰 三一卷二号 平成六年

罪と罰 三一卷三号 平成六年

刑政 一〇五卷一号 平成六年

刑政 一〇五卷七号 平成六年

刑政 一〇五卷十一号 平成六年

犯罪と非行 一〇〇号 平成六年

罪と罰 三二卷一号 平成七年

犯罪と非行 一〇四号 平成七年

時の法令 一四九四号 平成七年

Einführung, 1975, 110 Seiten

“Nishidoitsu keihōgaku” (Die deutsche Strafrechtswissenschaft), Tokio, Seibundō, 1978, mit 8
Ergänzungslieferungen

(mit Kühne) “Kriminalität und Kriminalitätsbekämpfung in Japan”, 1979; 2. Auflage 1991, 363 Seiten
(mit Ida Makoto) Aufsatzesammlung zum Strafrechtsvergleich, Seibundo, Tokio 1986, 1203 Seiten

“Die Entwicklung des japanischen Strafrechts- und Vollzugswesen”, in: Straf- und Maßregelvollzug. Bericht
über die 17. Tagung der Gesellschaft für die gesamte Kriminologie vom 5. bis 7. 10. 1973 in Bad Nauheim,
Stuttgart 1974, S. 161.

“Society and the victim”, in: Drapkin, I. und Viano, E. (Hrsg.), *Victimology*, Lexington, Mass. 1974, S. 5.

“Victimological studies in Japan”, *Keio law Review* 1975, S. 21.

“Traditionelles und Modernes im japanischen Strafrecht”, in: *ZStW* 88 (1976), S. 813.

“Victimological studies of sexual crimes in Japan”, *Victimology* 1976, S. 107.

“Erscheinungsbild und Tendenzen der Kriminalität in Japan”, in: *Monatschrift für Kriminologie* 1977(a), S. 1.

“Kriminalität und ihre Bekämpfung in Japan”, in: *Festschrift für Wertenberger*, 1977 (b), S. 299.

(mit Schneider, H. -J): “Vergleichende Kriminologie Japan”, in: *Sieverts/Schneider* 1977, S. 1.

“Verbrechenswirklichkeit in Japan”, in: *Keio Law Review*, 1978, S. 1.

(mit Kühne) *Kriminologie*, in Eubel (Hrsg.), “Das japanische Rechtssystem”, 1979, S. 323.

“Zur Praxis der jugendrechtlichen Reaktion auf jugendliche Delinquenz in Japan”, in: Kury, Helmut und
Lechenmüller, Hedwig (Hrsg.), *Diversions*, Bochum 1981, Band 2, S. 538.

“Vergleichende Kriminologie, Japan”, in: Schneider, Hans-Joachim (Hrsg.), *Kriminalität und abweichendes
Verhalten*, Weinheim/Basel 1983, Bd. 2, S. 459.

“Bewährungshilfe in Japan”, in: Dunkel, Frieder und Spiess, Gerhard (Hrsg.), *Alternativen zur Freiheitsstrafe*.

MPI Freiburg 1983, S. 319.

“Die Verfolgungstätigkeit der japanischen Staatsanwälte”, in: ZStW (Auslandsteil) 95 (1983), S. 1027.

“Praktische Vorgehensweisen, allgemeine Vorstellungen und Handlungsstrategien im Bereich informeller bzw. außerjustizieller Sozialkontrolle”, Kriminologisches Journal 1984, S. 301.

“München, Japan und die Strafrechtswissenschaft”, Keio Law Review 1985, S. 31.

“Informelle Sozialkontrolle in Japan unter besonderer Berücksichtigung ihrer praktischen Vorgehensweisen und Handlungsstrategien im Bereich informeller Verbrechenkontrolle”, Festschrift für Jescheck, Berlin 1985, S. 1159.

“Jugendkriminalität in Japan”, in: Schwind, Hans-Dieter (Hrsg.), Festschrift für Blau, Berlin 1985, S. 277.

“Viktimisierung im Straßenverkehr in Japan”, in: Hirsch, Hans Joachim u. a. (Hrsg.), Gedächtnisschrift für Hilde Kaufmann, Berlin 1986, S. 321.

(mit Kuhne) “Die Kriminalitätsentwicklung in Japan und Südkorea”, Monatsschrift Kriminologie 1988, S. 266.

“Das organisierte Verbrechen in Japan-Schattenseite einer modernen Industriegesellschaft”, Deutsch-Japanische Juristenvereinigung, Mitteilungen Nr. 3, Dezember 1989, S. 4.

その他 著作・論文・翻訳・資料・書評・座談会・随想等 多数。